

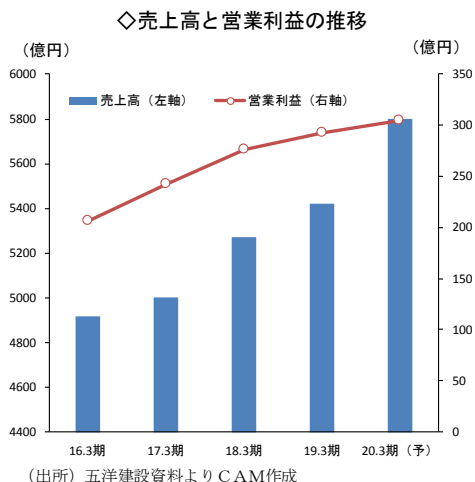
企業ニュース 五洋建設

(東証1部：1893) <http://www.penta-ocean.co.jp/>

作成者：高見澤晶子

海洋土木の国内最大手

海洋土木工事や港湾施設建築を強みとする建設準大手。20.3期・第1四半期（4-6月）の売上高構成比は、国内土木35%、国内建築33%、海外建設31%、その他1%。19.3期は工事進捗の遅れや資材需要のひっ迫によるコスト増などが影響し、売上高と粗利益が期初計画を下回った。それに伴い、20.3期を最終とする中期経営計画の売上高目標を、19.3期に増額修正した5,900億円から、当初の5,800億円に戻した。20.3期・第1四半期は国内建築と海外の工事進捗が順調で出足は好調、中期経営計画の達成が期待される。また、国内外でのインフラ整備需要の増加など良好な受注環境も追い風となり、持続的な成長が期待できよう。



第1四半期は大幅増収増益を達成

20.3期・第1四半期（4-6月）の連結業績は、売上高が1,448億円、前年同期比24%増、営業利益が82億円、同25%増。単体の売上高は国内建築と海外が貢献した。特に海外の完成工事高は、良好な天候による出来高増や一部設計変更の早期化などにより、下期分を前倒しで計上したようだ。単体の受注高は709億円、同48%減。前年同期は、国内建築の大型物流施設や香港の大型建築工事を受注したため、今期は反動減となった。

20.3期の通期会社計画は、売上高が5,800億円、前期比7%増、営業利益が305億円、同4%増。豊富な手持ち工事をこなし、完成工事高が増加する見込み。単体の国内建築は低採算案件の引き渡しを下期に控えているとみられ、21.3期にはミックス改善による粗利益率の上昇が期待できよう。単体の受注高は5,005億円、同微減を計画している。港湾や海上土木などインフラ整備関連の案件増加を背景に国内土木がけん引するほか、アジアを中心とした海外での大型工事需要の増加も寄与し、前年並の受注獲得を見込む。

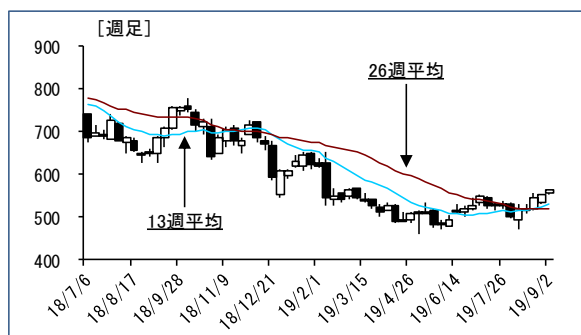
【株価動向・投資判断】

株価は軟調に推移しているが、堅調な受注増や手持ち工事の順調な消化、低採算案件竣工後のミックス改善による利益率の上昇などにより再評価されよう。

<1893 五洋建 業績：日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
18.3	526,902 (5)	27,617 (14)	25,683 (8)	17,826 (17)	62.4	14.00
19.3	541,949 (3)	29,232 (6)	26,569 (3)	18,899 (6)	66.2	19.00
20.3 予	580,000 (7)	30,500 (4)	29,500 (11)	19,500 (3)	68.3	20.00



[主要株価指標] (売買単位：100株)

株価 (2019/9/2)	564 円
年初来高値 (高値日)	651 円 (19/1/18)
同 安値 (安値日)	461 円 (19/5/10)
予想 P E R (20.3 予)	8.3 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	440.0 円
P B R	1.28 倍
予想配当利回り	3.55 %
(1株当たり配当金年20.00円)	
R O E (19.3)	15.8 %
発行済み株式数	28,601 万株